マウス皮膚二段階発がんにおけるDAGのプロモーション作用の検討

国立がんセンター研究所

マウス : ICRマウス 6週令 130匹

イニシエーション : DMBA (100 µg 塗布)

プロモーション : 高濃度にDAGを含む食用油、大豆油 週2回塗布

				1-5771				~- H = 11	
	-1	0	1					<u>20週</u> ~	
	D	M <u>B</u> A							
				D	AG	100년mol			20匹
	DI	MBA							
				D	AG	30µmol			20匹
	DI	MBA							
				大	豆油	100년mol			20匹
	D	MBA							
陽性效	打照群			T	PA	3.2 nmol			10匹
	D	MBA							
陰性效	押群								20匹
				D	AG	100µmol			10匹
				大	豆油	100µmol			10匹
				Т	PA	3.2 nmol			10匹
,	D	MBA							
					AG	100µmol			10匹

検定はDMBA 大豆油に対しDMBA DAGの増減を検定する。

中間報告 (11月24日(DMBA塗布によるイニシエーション後12週目)現在)

陽性対照群(DMBA塗布後TPA塗布群)ではTPA塗布5週目より、マウスの背部の皮膚に 隆起状病変が発生し始め、12週目現在10匹中5匹(50%)に発生しており、平均発生数は 4.8 ± 2.6(平均 ± SE)である。一方、他の全ての群では、このような隆起状病変の発生は観察されていない。

なお体重については陰性対照群(DMBA塗布後溶媒塗布)に比し全ての群で有意な変化は見られなかった。